

The 30th Miller Conference on Radiation Chemistry 参加記

2017年10月7日から11日まで、イタリアシチリア島、カステッランマーレ・デル・ゴルフオ (Castellammare del Golfo) にて開催された The 30th Miller Conference on Radiation Chemistry に参加した。Miller Conference は、英国等で放射線化学研究の先駆者としてご活躍された故 Nicholas Miller 博士に由来する会議であり、1959年の第1回会議以来、2年毎に開催されている。今回で30回目の節目となった本会議は、放射線化学の基礎、医療・生物、環境、工業、エネルギー、新材料の6つのトピックから構成され、世界18ヶ国から145名の参加があった。参加者の内訳は下図の通りであり、フランス、アメリカ、イギリス、日本、ポーランド、イタリアからの参加者が多かった。本会議では、32件の口頭発表と67件のポスター発表がなされた。口頭発表では、招待講演のほか、若手研究者による口頭発表セッションが設けられ、学生を中心に最新の研究成果が発表された。

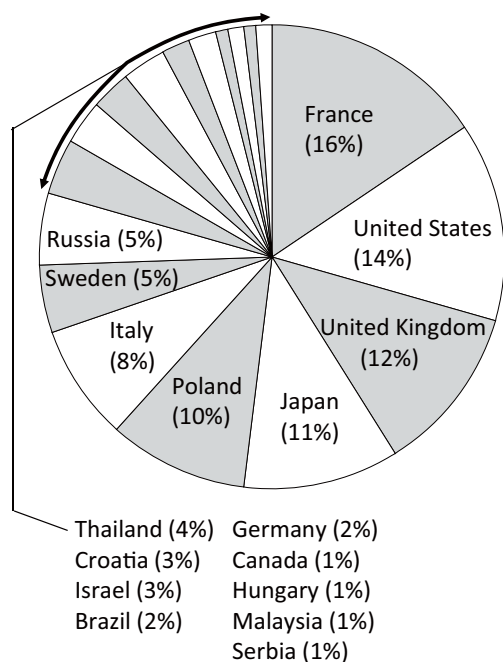


図. 本会議の参加者内訳

著者は「Effect of atmosphere on degradation of polyethylene under gamma-ray irradiation」の題目でポリエチレンの放射線劣化におよぼす照射雰囲気（空気

／水）の影響について得られた成果をポスター発表したが、ポスターセッションにおいては、ポリエチレンやその複合材料を試料とした放射線照射効果の研究や水の放射線分解に関する研究についての成果発表もされており、非常に参考になる情報を得ることができた。

開催地となったカステッランマーレ・デル・ゴルフオは、パレルモ国際空港から車で約30分のところにある小さな港町であったが、視界いっぱいに広がる真っ青な海と空には感動した（写真）。新鮮なシーフードをはじめ、パスタ、ピッツァなど食事はどれも美味しく、中でもポルチーニ茸のソースがかかった牛フィレステーキが絶品であった（日本から参加したメンバーで何皿注文しただろうか？）。また、エクスカージョンとしてパレルモの街を巡るツアーが企画され、2015年にイタリアで51番目に世界遺産に登録された「アラブ・ノルマン様式のパレルモとチェファル、モンレアーレの大聖堂」のうち、ノルマン王宮とパラティーナ礼拝堂を訪れることができた。キリストや聖書の様々な場面を金色のモザイクで描いた装飾はまばゆいばかりであった。



写真. カステッランマーレ・デル・ゴルフオの風景

筆者は今回初めて本会議に参加したが、放射線化学、放射線利用の研究成果について広く見識を得ることができた。また以前、高崎研究所に滞在していた研究者達とも旧交を温めることができたことも本会議に参加して良かった点である。第31回会議についてはまだ詳細が決まっていないようであるが、チャンスがあればまた参加したいと思う。

(量子科学技術研究開発機構 出崎 亮)

ACRR2017 参加記

平成 29 年 8 月 16 日-18 日にカザフスタンのアスタナにて開催された 4th Asian Congress of Radiation Research (ACRR2017) に放射線化学会の支援を受けて参加させていただいた。ACRR はアジアの放射線関連の研究者が集う会議で、2005 年に広島で開かれて以来、今回で 4 回目となる。今回取り扱われたテーマは大きく分けて

- 低ドーズの生物学的効果
- 原子力事故とその結果
- 放射線治療の革新
- 放射線化学と放射線プロセス

の 4 つであった。それぞれ多岐にわたる内容のセッションが行われていた。



写真 1. 開会式の演奏。

開会式では歓迎の音楽が演奏された (写真 1)。広範な内容の講演のおかげで、筆者が普段触れられない知見にも触れることができ、知見を広める良い機会となった。

発表の中で興味を惹かれたのは、内部被ばくによる生体影響など、鉱石ウラン産業における放射線安全研究がカザフスタンで盛んにおこなわれていることだった。カザフスタンの鉱石ウランは比放射能が高いことで知られており、ウラン採掘が盛んなカザフスタンで

は重要な研究と位置づけられ、国によっても力を入れる研究分野が異なることを実感した。

筆者は 2 日目午後のポスターセッションで発表を行った。海外の研究者に興味を持っていただくことができ、普段とは違う雰囲気でのディスカッションすることができた。

なお、日本からは大阪大学・吉田陽一教授のパルスラジオリシスの研究や早稲田大学・鷺尾方一教授の放射線グラフト重合による温度応答性膜の作製等の発表があった。



写真 2. バンケットにて。

バンケットではカザフスタンならではの料理がふるまわれ、発表を終えた研究者達が和やかな雰囲気での交流を行い、音楽に合わせてダンスに興じていた (写真 2)。

次回の 5th ACRR は 2021 年にインドのムンバイで Society for Radiation Research India の主催により開催される予定とのことなので、興味がある方は是非参加を検討いただきたい。

(早稲田大学 西留 武宏)